

目標の立て方 その2(覚悟を決める)

以前自分の教え子で、こういう女子生徒がいました。3年生の夏休みに入るころだったと思います。『携帯の電源を高校入試が終わるまで、切ります。なので、今後私とは、メールが繋がりません』と、宣言し、本当に実行しました。自分も学年の生徒から聞いて驚きましたし、周り友達もびっくりしていました。これは、この女子生徒にとって1つの覚悟を決めたということだったみたいです。実際8か月、携帯のメールは切ったままで、この子は見事に希望校に合格しました。ちなみに大学入試の時も同じことをしていたみたいです。

また、自分がソフトボール部の顧問(最後の監督)をしていたときの話です。今までの学年とは違い、1年生の途中からあまり練習に参加せず、やる気があるのか、ないのかわからない学年でした。先輩たちが引退し、その学年の代になった時に、自分が『どういう部活にしたい?目標はどうする?』『楽しくやりたいのなら、定期的に部活も休みにするし、厳しい練習もしなくていいよ』と話したところ、その子たちは、何回も話し合って『今までの先輩たちみたいに総体で県大会に行きたい』という結論を出しました。自分は、『ほぼ1年間、まともに練習していないから相当な覚悟が必要だよ』という話をしましたが、それでも『総体で県大会に行きたい』と言うので、『じゃあ、家の人にこれから県大会を目指すことにしたから、申し訳ないけど、毎週土日、お弁当をお願いします。と伝えなさい。当然、これからは、休みはないし、夏休み、冬休みも1日練習だから。その覚悟するということでもいいんだ。ただ、そこまでやったからといって必ず県大会に行ける保証はないよ、ただ、県大会を狙えるチームには絶対にしてあげる。それでよければ先生もあなた達に付き合って、一緒に覚悟を決めるから。休みがないのは、あなた達だけではないので』(ちなみに今はこんなことはできません)という話をし、どんなに厳しくて、辛くてもやめないこと、仲間をやめさせないことを約束させ、そのかわり、自分からはどんなに叱っても、絶対に見捨てないことを約束して、新チームがスタートしました。夏から春までは大会はもちろん、練習試合も負けてばかりでしたが、4月から一気に勝ち始め、招待大会を含めすべての大会で賞状をもらうまでになり、最後は県大会ベスト16までになりました。自分が監督として見た学年で一番練習量も少なかったし、動ける選手もいなかったのですが、ただ、チーム力は、今までのチームで一番すごかったと思います。ミスした選手がいたら、チームとしてどうフォローしていけばいいのか、それを考え、行動に移せるチームでした。

今回は、**覚悟を決める**という視点での話です。これらの例は、いろいろなことを犠牲にしているので、少し極端な例ですが、目標を達成したいという思いは皆さんの参考になるのではないのでしょうか。1年いや、1か月でもそういう何か覚悟をしてやってみるのもこれからのことを考えると大切かもしれませんね。

ちなみに、この選手たちのうち何人かは、今は、いいお母さんになっています。